

夢中になって遊ぶこと

園長 篠澤 恵理

砂場に太い筒を立て、筒の中に砂と水を満杯になるまで入れてから、その筒を持ち上げると、筒の下から砂と水が勢いよく出ます。これは、年長もり組の子どもたちが、夢中になって遊んでいることの一つです。水と砂の分量によって、この勢いが変わるので、「下から、ドバーっと出したい。」という、子どもたちの共通の目的のために、何度も繰り返し試しています。よく見ると、砂を入れる子、水を汲む子、隙間からこぼれ出る砂をせき止めるために湿った砂をつけて補強する子、筒が倒れないように下の部分を砂で固めている子など、声を掛け合いながら見事に役割を分担しています。「もう水を入れようよ。」「まだ待って。砂を入れたほうが良いと思う。」などと、手を動かしながら、自分で「こうしたほうが良い。」と考えたことをすぐに伝え合っています。中には、「崩れるから、まだ砂を入れちゃダメ。」と言われても、早く満杯にしたいと、砂をたくさん入れてしまう子もいます。どうなるかなと見ていると、「砂が漏れちゃう。」「すぐに砂をつければ大丈夫。」「そっち頼む。」など、思わぬ状況にもすぐに声を掛け合って対応していました。これまで、うまくいかないことをたくさん経験したからこそ、多少の意見の相違も補い合う連携プレーが見られた場面でした。違う考えの友達がいることで、新たな展開や発見、そして面白さがあり、それも夢中になって遊ぶことの原因になっていると感じます。

また、この遊びは、日々工夫を重ねて変化し、筒に砂を自動的に入れるような仕掛けを考えていた時もありました。子どもたちが、何度も試したり工夫したりするためには、ダイナミックに遊ぶ環境を用意するだけでなく、ゆっくり、じっくり、とことん遊べる時間と、それを一緒に面白がって支える友達や教師の存在が必要です。「よい考えね。」「チームワークが良かったね。」など、子どもたちが何気なくしている行動を意味付けていくと、思いついたことが、素敵な考えとして実感できていくため、幼稚園では、一日の最後の振り返りの時間を大切にしています。自分たちの遊びを振り返る中で、子どもたちが、自分の行動に自信をもちながら、次にしたいことを意識していく機会になるように願っています。

さて、近年現代社会は、AIに代表される技術革新の進歩や地球環境の変化などにより、これから先の社会予測不能なことにも対応していく力の育成が求められています。OECD（経済協力開発機構）では、未来での社会で通用する力である、「非認知能力の育成」に注目しています。この力は、いわゆる学力やIQなどで数値化できない「粘り強くやり抜く力」や「意欲」などの「心のたくましさ」とも表現され、幼児期の豊かな遊びの中で育まれていくと言われています。ふくろ幼稚園では、今後さらに「夢中になって遊ぶ」ために必要な環境（物・場・時間・人）を整え、子どもたちが試行錯誤しながら「何だろう（好奇心）」「何故だろう（思考力）」「やってみよう（探求心）」と、根気よく物事に向き合う力の育成に努めてまいります。

《今月のめあて》

- 4歳児 ・みんなと一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。
- こりす組 ・自分の思いや考えたことを動きや言葉で表して、友達と関わって遊ぶことを楽しむ。
- 5歳児 ・共通の目的に向かって、自分の考えを伝えたり、友達の考えや動きを受け入れたりして、友達と遊びや活動を進めていく。
- もり組 ・いろいろな運動遊びに取り組む中で、友達と十分に体を動かしたり、自分の力を発揮したりする。

今月の歌

☆ どんぐりころころ ☆

- 1 どんぐりころころどんぶりこ
おいけにはまって さあたいへん
どじょうがでてきてこんにちは
ぼっちゃんいっしょにあそびましょう
- 2 どんぐりころころよろこんで
しばらくいっしょにあそんだが
やっぱりおやまがこいしいと
ないてはじょうをこまらせた

